

探究Ⅱ活動報告

2年1組担任 松本 修子

探究Ⅱの活動では、探究Ⅰの「答えがすぐに見つからなかったり、答えが複数あったりする問いに対して、自分なりの答えを探していく活動」を継続し、自分の興味関心のある事柄で、疑問に思うことから探究するテーマを探し、それについて、自分の頭で考えて自分なりに答えを出して進んでいくという活動を進めた。

昨年学んだ探究のスキルを活用し、中間発表、外部発表など数回の発表を経験することで、自分の探究してきたものをまとめ、自分の考えを分かりやすく伝える力を養成した。また、神戸大学や京都大学などから講師を招き、自分が実施している探究活動を極めていった先の研究発表のゴール地点と言える研究発表が如何なるものかを見ることで、探究の面白さや深さを学ぶことが出来た。

(1) 学習内容

4月13日 昨年の振り返りとテーマ設定検討（継続か変更か）

一年次からのテーマの継続か、2年次からのテーマに変更するかを考える。

4月20日 兵庫県探究発表優秀作品の視聴

探究Ⅱの取り組みの最終成果物が、どのようなものになるのかをイメージする。

4月27日 テーマ設定・スケジュールリングの決定

5月～6月 調査・まとめ

進捗状況の面談をする。フィールドワークの行き方を確認する。

中間発表に向けてのリハーサルをする。

夏休み フィールドワーク

必要な者は、申請をしてフィールドワークに行く。

9月7日 14日 21日 28日 中間発表（パワーポイント使用）

一人5分程度の発表をする。友だちや先生からアドバイスをもらう。

21日は、神戸大学院生来校。探究発表のアドバイスを受ける。



10月5日 京都大学学びコーディネーター事業出前授業

京都大学工学部研究科社会基盤工学専攻博士課程3回生 吉野和泰氏の
研究テーマ「持続可能なまちの未来をデザインしよう」を視聴する。

10月12日 地方創生政策アイデアコンテスト2022 優秀作品の視聴

図やグラフの使い方、パワポの構成などを学ぶ。

10月～11月 外部発表に向けての最終成果物作成

12月17日 甲南大学リサーチフェスタ・東京学芸大学探究プロジェクト参加



(外部発表)

甲南大学リサーチフェスタには23人参加、東京学芸大学には6人参加する。

1月11日・18日 発表準備・まとめ作成

1月25日 地域課題を考える日

2月10日 SDGs発表会

12月17日の不参加者が発表参加

3月7日 知の探究コース発表会

(2) 12月17日外部発表の振り返りから

・発表前はなかなか考えがまとまらなかったけど何とか形になったと思います。この二学期はすごく迷走して、これからどうするかや仮説の設定などにかなりの時間を費やしました。でも、自分の探究テーマをもう一回見直すことができこれからの方針や仮説の設定などを固めることができました。今回の発表会はリモートということもありそこまで緊張せずに発表できたし、質問の対応もしっかりとできたと思います。

・人の前で意見を言うことに慣れて、堂々と自分の意見を言えるようになりました。いろいろな人の意見を聞くことができてすごくおもしろかったです。他の人の発表を聞いて質問や質問をすることができるようになりました。

・探究をしていく中で仮定通りにいかないことが怖くなくなった。

・発表会でのプレゼンテーションや司会を経験して、初対面の人達の前で自分の考えを話す度胸がついたと思います。見ず知らずの高校生や大学生、大学の先生を前にプレゼンテーションをする事に酷く緊張を覚えていましたが、いざ話し始めてみると、案外平気なものでした。質問をされても、心を乱す事なく落ち着いて回答する事ができました。大学生の方のプレゼンテーションも聞きました。高校生よりも遥かに内容が高度で、説明やスライドも非常に分かりやすかったと感じます。流石...と感嘆するばかりです。探究を進めるにおいて良い勉強になりました。

(3) まとめ

2年間の探究活動を通して、生徒達は、「生きるための模索」を必死でやり通したように感じている。身近な所の問題点からテーマ設定をし、そこから問い立て、情報収集、考察、検証をする。また、それを発表し考えを深める。この一連の学習のゴールはなく、何も見えてこないことに向かって探究し続けるということは、非常に困難な取り組みだったようだ。ただ、探究活動は、「生きる」上で繰り返していくことであって、それらを経験し乗り越えられたことは、非常に貴重な機会だったと感じている。

そして、2年間、生徒達の自由な活動を見守りつつ、必要に応じて手を差し伸べていただいた担当の先生方や関係の方々に感謝申し上げます。

(3) 第2学年「丹 BAL II」

年間計画

日程	内容
4月13日(木)	年間予定発表、班決め
4月20日(木)	活動開始、研究テーマ決定
4月27日(木)	班ごとでの活動開始
5月11日(木)	班ごとでの活動
5月18日(木)	1学期中間考査(活動なし)
5月25日(木)	班ごとでの活動
6月01日(木)	班ごとでの活動
6月08日(木)	班ごとでの活動
6月15日(木)	班ごとでの活動
6月22日(木)	班ごとでの活動
6月29日(木)	1学期期末考査(活動なし)
7月13日(木)	1学期中間報告書提出
	・夏季休業中は班ごとで校外活動
9月07日(木)	班ごとでの活動
9月14日(木)	班ごとでの活動
9月21日(木)	班ごとでの活動
9月22日(木)	班ごとでの活動
9月28日(木)	班ごとでの活動
10月05日(木)	中間発表会準備
10月12日(木)	中間発表会
10月19日(木)	2学期中間考査(活動なし)
10月26日(木)	班ごとでの活動
11月02日(木)	班ごとでの活動
11月09日(木)	班ごとでの活動
11月16日(木)	修学旅行(活動なし)
11月30日(木)	班ごとでの活動
12月07日(木)	2学期期末考査(活動なし)
12月14日(木)	2学期中間報告書提出
1月11日(木)	最終発表会概要説明
1月18日(木)	最終発表会準備
1月25日(木)	最終発表会
2月01日(木)	最終報告書(ポスター)作成開始
2月08日(木)	最終報告書作成
3月15日(金)	最終報告書提出

一般クラスでは、自分の興味関心に応じて、特に自分の将来したいことや進路につながるようなテーマを設定して探究活動を行った。あらかじめ、SDGs、人文科学、社会科学、自然科学、地域科学、修学旅行、その他、のさまざまなテーマを設定し、自分がどのテーマの内容を探究したいのかを考えさせた。その後、同じようなテーマを考えた生徒が複数集まって研究班を作った。研究班は5人までとし、個人での活動も可とした。さまざまなテーマ一つを一人の教員が担当し、生徒は大きなテーマごとに毎回集まって探究活動を行った。研究班ごとのテーマ設定も何回でも再設定可とし、「学びのサイクル」の中でテーマを深めていけるようにした。また、タブレットを活用し、円滑に物事を調べられるようにした。

1学期は、多くの班が校内外でアンケートを複数回実施し、その結果分析に時間を割いた。それらをもとにして、7月に大きなテーマごとでの中間発表会をスライド発表の形で行った。そこで分かった課題を夏休みのフィールドワークに生かすことによって、2学期の活動につながるようにした。

2学期は、夏休みに行ったフィールドワークのまとめや分析、アンケートの再実施・再検証などを行い学びを深めた。2学期後半は、3学期に行われる最終発表に向けた準備を行った。なお、研究班によっては地域の方々に教えを仰ぎ、共に活動した班もあった。

3学期は、1年間行ってきた探究活動のまとめの期間であった。1月には、最終発表会を、大きなテーマごとでスライド発表の形で行った。中間発表会での反省を生かし2学期の間に探究を深めた結果として、中身のある素晴らしい発表も多く見られた。しかし、調べ学習の範疇から抜け出していない研究班もあり、内容を深める段階に到達していないという印象を持った。調べることをどう深め、発展させていくのが課題であると感じた。

最終発表後は、1年間の探究活動のまとめを研究班ごとでA4数枚にまとめる作業を行った。総合は週1単位であるため、論文を書くところまでは到達しなかったが、まとめを冊子にし、今後の活動に生かすことができたらと考えている。

最後に、探究活動を行うことによって生徒の何を伸ばし、どのような力を身につけさせるのかという具体的なビジョンを考え、次の学年につなげていくことがこれからの課題である。

(4)第3学年「丹 BALⅢ」

年間計画

日程	学習内容	留意事項
4 / 18 月	オリエンテーション 他己紹介取材	クラス単位でペアリング作成 ペアの相手の紹介をするための情報収集&紹介原稿作成
4 / 25 月	他己紹介発表①	各クラス毎に他己紹介の発表をしていく
5 / 2 月	他己紹介発表②	各クラス毎に他己紹介の発表をしていく
5 / 9 月	自己紹介文作成	他人からの評価を踏まえて自己紹介文の作成
5 / 16 月	面接試験について	資料の調べ方・受験報告の見方・所作等の基本事項
5 / 23 月	面接実戦練習準備①	自分の進路希望先の情報収集
5 / 30 月	面接実戦練習準備②	メンバーの希望進路の調査&希望先情報収集①
6 / 6 月	面接実戦練習準備③	メンバーの希望進路の調査&希望先情報収集②
6 / 13 月	面接実戦練習準備④	メンバーの模擬面接官質問用紙の作成
6 / 20 月	面接実戦練習準備⑤	自分の進路先面接ノートの制作(志望動機作成)
6 / 27 月	模擬面接練習①	面接練習及び問題点の洗い出し
9 / 5 月	模擬面接練習②	2回目の面接練習
9 / 12 月	小論文講座①	表記、構成など基礎事項のふりかえり
9 / 26 月	小論文講座②	志望理由書のリトライ
10 / 3 月	小論文講座③	自己PRの仕方
10 / 24 月	小論文講座④	自己PR書の完成
10 / 31 月	まとめ	ポートフォリオの形式でまとめる
11 / 7 月	まとめ	
11 / 14 月	まとめ	
11 / 21 月	まとめ	
11 / 28 月	まとめ	

【備考】

*3年生では具体的な進路実現に向けて、話す力を含め、より具体的な取り組みを行います。

3年次の活動は進路に関することが中心であった。1学期は他己紹介や自己PR・志望動機の作成・小論文・模擬面接などを中心に行った。2学期からは個々の進路や入試の選抜方式の違いから、自分の必要な準備を行うことを中心に活動した。また、進路先に応じた面接練習を行い、時期によっては多くの生徒が殺到した。1学期はまだ具体的な入試のプランが決まっていない生徒が大半であったが、2学期に入ると総合型選抜入試や学校選抜型入試の受験校が決まるので、その生徒のニーズに応じた講座を設定するなど、できるだけ進路に対応することができるようにする工夫が必要である。

3年間の活動を振り返ってみると、1年次では「丹波の魅力をおすすめ分け」というテーマで、丹波の魅力を考え探究する活動を行った。特産品をはじめ様々な切り口から5人からなるそれぞれのグループがテーマを設定し、調べ学習やフィールドワークを行った。2年次では自分の興味関心に応じて、特に自分の将来したいことや進路に繋がるようなテーマを設定して探究を行った。1, 2年生の探究活動により、テーマ設定をしてそれを調べ考える、仲間と協働する、文章やスライドを作成する、自分の考えを発表することなどができるようになった。それらの活動が基礎となり、3年次の進路探求に繋ぐことができたと考える。課題としては、国公立大学総合型選抜や学校推薦型入試に対応できる力を養うために、プレゼンテーションやグループディスカッション、口頭試問、集団面接などについても対応できる力を養う必要がある。また、年間計画は作成したものの、3年間の活動計画の概要と身に付けさせたい力を明確にして、担当者が変わってたととしても3年間を通して生徒の進路を見通した活動をする必要があると考える。

(5) 第3学年「グローバル」

年間計画

一般コース(選択人数:4)	
1学期	<ul style="list-style-type: none"> ・探究について 調べ学習と探究活動の違い ・テーマ決め ・研究計画書の作成・フィールドワーク計画 ・パワーポイント作成 ・中間発表会
2学期	<ul style="list-style-type: none"> ・調査分析 ・まとめ・発表練習会 ・探究活動発表会
	論文作成
3学期	

【グローバル】学校設定科目(文系選択科目)

授業担当者:佐竹靖史, 土元優一

中学校の学習指導要領の総合学習の目標には「探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていく」とある。これに対し、高校の総合的な探究の時間の学習指導要領には「自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していく」とあり、生徒自身と課題の位置づけが変化していることがわかる。高校ではさらに「自分の在り方生き方と一体的で切り離せない課題を生徒が自分で発見し、解決していく」ための資質・能力を育成することを目指している。つまり、「探究的」が「探究」になることで、生徒自身で探究の過程を進めることができるようになることが求められていると読み取れ、教員は生徒らに対して3年間で、課題の設定だけでなく、探究の過程の高度化と自律的に行えるようにする学びを提供しなければならない。

しかし、本校生の実態は、視野を広げる態勢が醸成されておらず、大人の指示を待っていることが多い。与えられたことに対しても遂行することが精いっぱい、その先や込められた意図に想いを寄せる時間がないように感じるし、発表といえば、ウワベだけ整えてしまう傾向がある。社会においても「探究」や「SDGs」という言葉がよく使われるようになり、「探究」が魅力的なものであるとされ、「SDGs」や地域とつながることで社会参画できる高校生がよいとされる風潮があるように感じるが、それらの意義や熱意が生徒らにとって腹落ちしていないままではないだろうか。

このグローバルの授業は3年生での選択科目であり、今年度選択者は一般コースの4名であった。上述した実態を踏まえ、生徒ら自身で探究の過程を進めることができるようにするため、担当教員2名は生徒4名それぞれの伴走者であろうとした。指導するにあたっては、ウワベだけの知識の教え込みではなく、対話の時間を多くとって生徒らの本音の部分を引き出し、生徒ら自身の想いで探究の過程が行き来させるよう心がけた。実際の指導においては探究活動の一連の過程を、生徒個人の興味関心のある題材で経験させていきたいという思いから、テーマ設定の段階に時間を多くかけた。テーマが決まってからも、情報の収集や整理・分析、表現の各段階を行き来していく中でも毎時間、各自の進捗状況を確認し

ていきながら、生徒らの課題意識や目標やストーリーを精緻化していった。「必要な時には助けるから何でも自由にしてよい」という「放任・放置」という立場ではなく、思考や行動を客観的に把握できるような視点を与えるような指導が必要であると感じた。生徒が過程を歩き来する様々な場面で内面的に振り返り、探究の質を高めていけるよう、「その内容や手法は自分自身が腹落ちするものか、身近な人は納得してくれるのか」を問うようにした。

2か月に1度の進捗状況発表会を設定し、発表や質疑のスキルを確認しながら、必要に応じて指導を行っていった。発表を通して生徒らは自ら設定したテーマに対する学びを共有し、自分の内にあることを他者に伝えることの難しさとともに、共創の場のよさを感じたようである。このことは、次の授業後の生徒らの発言や振り返りの記述からも成長が感じられるのではないか。

- ・考えても難しいことばかりで授業が嫌だと思ふときもあったけど、ハッとする気づきが得られたときはすごく進めることができた
- ・自分で進める大変さもあったけど、多くの人との出会いの中で助けてもらい、世界が広がった
- ・これまでの発表は原稿通りに読むことだけだったけど、どうすれば自分の想いが伝わるかを考えて何回も原稿を書き直したし、発表のシミュレーションもした。発表が苦手だったはずなのに、外部での発表にも参加したいと思うようになった。
- ・調べる限界を感じた。調べたものを通して「自分はどう考えるか」と聞かれたとき、ドキッとした。闇雲に調べることから始めたが、ある程度情報がそろいだと「どういうことか、どう自分の主張と結びつくのか」という視点で見えるようになった

4. 第1回「知の探究」発表会

目的: 1年かけて取り組んできた探究の成果を報告する。
上級生の探究活動の成果に触れ、次年度行う探究活動のイメージを作る。

日時: 2024年3月7日(木)8:35~12:40

場所: 丹波の森公苑(現地集合)

時間: 第1部 ポスター発表 9:00 ~ 9:45
☆ 1人 10分(5分程度発表、残り時間質疑応答)
9:05 ~ Iターン(パネル表 発表)
9:15 ~ IIターン(パネル裏 発表)
9:25 ~ IIIターン(パネル表 発表)
9:35 ~ IVターン(パネル裏 発表)

第2部 ステージ発表 9:55 ~ 11:05
☆ 1人 10分(5分程度発表、残り時間質疑応答)

第3部 講評・講演 11:15 ~ 12:25
関西学院大学 高畑由起夫 名誉教授

当日の流れ:

	内容	先生方の動き
8:15	管理棟開錠。 ※ 中で待機できます。	
8:30	ホワイエ開錠。入場。 ※この時点でホールにはまだ入れません。	
8:35	集合・点呼完了。 ※ 1年 練習室、2年 ホワイエ <u>全体の流れ 説明</u> 1年 津田・2年 原 → スケジュール、Wi-Fi への接続、フォーム提出について 説明後、 1年 見に行く発表を決めておく。 2年 ポスター貼り付け。発表準備。	担任は出欠確認。 → 1年 津田 2年 原へ報告 <u>パンフレット配布</u> 。
9:00	開会式	荒木校長

		司会 原
9:05	ポスター発表 Iターン(パネル表 発表) 聞き手:各ターンで1人の発表は必ず聞き、フォーム入力をする。早く終わった場合、別の発表を聞きに行ってもよい。 発表者:聞き手が来たら発表する。同ターンの中で2回～発表することもある。 以降、それと同じ。	先生方は自由に発表を見学してください。
9:15	ポスター発表 IIターン(パネル裏 発表)	同上。
9:25	ポスター発表 IIIターン(パネル表 発表)	同上。
9:35	ポスター発表 IVターン(パネル裏 発表)	同上。
9:45	トイレ休憩。ホール入場可。それ以外の生徒は自席にて待機。	
9:50	開会式 発表者は、ステージ左側最前部にて待機。 発表終了後もそこで待機。	荒木校長 司会 原
9:55 (1人10分)	『地震と聴覚障害～情報を平等に・支援を公平に～』 ※ 発表は5分程度。他の生徒は、フォーム評価する。	着座にて発表を聞く。
10:05	『猫の殺処分を減らすために～保護猫と地域猫～』	同上。
10:15	『スマホとの接し方を考える』	同上。
10:25	『ストレスフリーな生活を送るために』	同上。
10:35	『音楽を親しみやすいものにするために』	同上。
10:45	『おうち時間を楽しみたい～北欧・家具から考える～』	同上。
10:55	『恐怖症と共存する』	同上。
11:05	トイレ休憩	
11:15	講評・講演(関西学院大学 名誉教授 高畑教授) ほかの委員の方には講評用紙への記入をお願いする。	
12:20	閉会式	荒木校長 司会 原



5. 探究成果例

(1) 生徒探究テーマ一覧

1年

1班	ロスなく食べよう
2班	ロスなく食べよう
3班	節水のメリットとは何か
4班	くらしの工夫で節電しよう
5班	ごみの分別と5Rを心がけよう
6班	サステナブルなファッションを広めたい
7班	脱炭素型製品の効果
8班	再生可能なエネルギーを
9班	再生可能エネルギー
10班	再生可能エネルギー～持続可能な社会に向けて～
11班	移動をエコに健康に
12班	世界の食糧が足りない…！どうすれば？
13班	フードロスの原因と対策
14班	ロスなく食べよう
15班	フードロス
16班	ロスなく食べるためには？
17班	農家の規格外品廃棄問題
18班	食品ロスの歴史
19班	残った給食の行き場
20班	暮らしの工夫で節電しよう
21班	暮らしの節電
22班	ごみの分別
23班	サステナブルなファッション
24班	丹波市のバイオマス発電の昔と今の差は？
25班	ロスなく食べよう！
26班	賞味期限と消費期限の関わり～過保護すぎる期限の問題性～
27班	ロスなく食べよう
28班	捨てられすぎないか
29班	節水を心がけよう
30班	節水を心がけよう
31班	暮らしの工夫で節電しよう
32班	ごみの分別～丹波氏の活動編～
33班	サステナブルなファッション
34班	脱炭素商品を広めるには

35 班	再生可能なエネルギー
36 班	きれいな水を使えない国の現状
37 班	食品ロスを減らそう！ロスなく食べよう！
38 班	ロスなく食べよう～なぜ食品ロスは青果物が多いのか～
40 班	暮らしの工夫で節電しよう
41 班	リサイクルを全世界へ
42 班	サステナブルなファッション～オーガニック～
43 班	脱炭素の製品に注目しよう！！
44 班	再生可能エネルギーに使われる資源の共通点とは
45 班	再生可能エネルギー
46 班	移動をエコに健康に
47 班	ごみの分別と5Rを心がけよう
48 班	脱炭素型の製品に注目しよう
49 班	ロスなく食べよう
50 班	え！？ロスなく食べよう
51 班	ロスなく食べよう！
52 班	ロスなく食べよう！
53 班	ロスなく食べよう！
54 班	節水を心がけよう
55 班	暮らしの工夫で節電しよう
56 班	ごみの分別と5Rを心がけよう
57 班	サステナブルファッション
58 班	脱炭素について
59 班	再生可能エネルギー
60 班	移動はエコに健康に

2年1組

2-1-1	ストレスフリーな生活を送るために
2-1-2	食料自給率と日本の特徴
2-1-3	ドラッグーマネジメントから野球を関連付けて
2-1-4	スポーツとコミュニティについて
2-1-5	安楽死を考える
2-1-6	コラッツ予想について
2-1-7	食で宇宙生活を豊かに～丹波地域の特産物をメインにした宇宙食の提案～
2-1-8	児童虐待を減らすには
2-1-9	おうち時間を楽しみたい -北欧・家具から考える-
2-1-10	自然の力で心も体も健康に ～地域の森林を活かした健康づくり～

2-1-11	音楽を親しみやすいものにするために
2-1-12	やる気の正体
2-1-13	幸せと食事の結びつきについて ～栄養素から見る幸せ～
2-1-14	人と宇宙と心理
2-1-15	丹波三宝はなぜ丹波の特産品となったのか
2-1-16	音楽と人にはどのような関係があるのだろうか
2-1-17	地震と聴覚障害 ～情報を平等に・支援を公平に～
2-1-18	地域の耐震を考える
2-1-19	「推し活」を身近に ～推し活が与える影響と効果～
2-1-20	同じものの値段が変わってくる理由
2-1-21	お腹が鳴る仕組みと対処法 ～恥ずかしさをなくすためには～
2-1-22	数学的に投資することは可能か
2-1-23	猫の殺処分を減らすために ～保護猫と地域猫～
2-1-24	推し事が疲れる！！
2-1-25	日常で使われるフォントが人に与えるイメージ
2-1-26	忘れ物の原因と対策方法とは
2-1-27	小テストの点数を効率的に上げ定着させる方法は何か
2-1-28	恐怖症と共存する
2-1-29	燃えるごみを減らすために ～生ゴミについて考える～
2-1-30	進化から考える、良い睡眠
2-1-31	誹謗中傷の増加の原因とは
2-1-32	スマホとの接し方を考える
2-1-33	観光都市と鉄道
2-1-34	犯罪者数の増減の変化には世界情勢と関わりがあるのか
2-1-35	iPS 細胞の相反性 ～再生医療の法規制と倫理～
2-1-36	電子マネーによる経済効果。

2年2～5組

1班	女性だけ育児？何だそれ！？
2班	議会に参加してみた
3班	安全な水を世界中に
4班	パートナーシップ制度について
5班	ブルキナファソってどんな国？
6班	丹波市の未来を変えるために議会に突撃してみた！
7班	子ども食堂
8班	ヒエログリフの構文
9班	人種差別を無くそう

10 班	寺・神社は何故壊されているのか
11 班	Let's korean!
12 班	柏原の古墳
13 班	ダウンタウン…
14 班	ギザの大ピラミッド
15 班	会社を作ろう！
16 班	～バリアフリーを普及させよう～
17 班	株～稼ぎたい～
18 班	田舎にもデリバリーを
19 班	環境交流
20 班	企業×AI
21 班	投資でお金を増やす
22 班	Star Watching
23 班	植林と養成
24 班	生態系の調査
25 班	転生したら鮎だった件
26 班	丹波の森公苑の生態調査
27 班	人工林のこれから
28 班	地元農業での動物被害を減らすには？
29 班	人が集まる地域の特色とは
30 班	丹波市の観光について考えよう！
31 班	おいでよ丹波の里
32 班	修学旅行ソングを作ろう♪
33 班	“やまとんちゅが調べるでーじーまーさん沖縄料理～琉球イーヤーサーサー～”
34 班	子どもが自分らしく生きるには
35 班	多様性を認め合おう～同性婚について～
36 班	非モテのお前らへ ～最後のチャンス～
37 班	まだまだ行くぜ！ 班長カラオケ成長日記
38 班	生徒がより良い学校生活を送ることができる学校づくり
39 班	～🌐世界の死刑制度 いんだわーるど🌐～

3年 グローカル

1班	「韓国料理から地域とつながる」～韓国好きのJK3の取り組みを部活や学校に広げた一実践
2班	「地域行事を通して自衛隊を知る」～より多くの人に興味を持ってもらうために～
3班	「ギャンブル依存症」～近年増える依存症、その原因とは～
4班	「HSP(Highly Sensitive Person)×音楽」～HSPの人たちの気持ちや思いを自作音楽にのせて発信する活動

(2) 1年「探究I & 丹BAL I」

サステナブルな ファッションを広めたい！！

6班 石塚未来 梅原花菜 百谷夢也花

サステナブルなファッションって何してるん？

(企業を取り組み)
 (1)フェアトレード
 (2)炭素ロスの削減
 (3)動物の皮、毛を使用しない

(身近な取り組み)
 (1)古着の購入
 (2)サステナブルを考えた買い物
 (3)服の再利用
 (4)環境負荷の少ない洗濯

サステナブルなファッションとは

衣服の生産、流通のときに自然社会に配慮した取り組み

Q1 二酸化炭素は衣類の一生のどの過程で排出されているのか

仮説 輸送、製造、焼却

原材料調達	46.8%
紡績	14.9%
染色	28.0%

Q2 古着の再利用は環境にどう貢献するのか

古着でエコバッグを作ってみよう！！
 木が1日に吸収するCO2 840g
 12.5日 × 約40g

A. 焼却処分しなければ
 1着につき約500gの二酸化炭素削減！！

手順④

裏返し、カットした前後の布を2回固結び

調べてわかったこと

Q. 難民の方々に服を寄付するのは圧縮？
 古着を難民の方々に届けたいやん！

実際は...
 寄付された服がゴミの山に！！

結論

エコバッグを作るにも二酸化炭素を排出する
 古着で作ることでCO2の排出量を削減できる！！

エコバッグ完成計

タブレットも入る

Q. エコバッグは本当にレジ袋よりエコ！？

エコバッグ生産 781.7g
 レジ袋生産 15.4g

エコバッグを50回以上使用してはじめて“エコ”

エコバッグを使い続ける事が大切！！

今後の課題

①古着を使ったエコバッグの作り方を広める
 ・ポスター
 ・動画

②古着を再利用できる別の方法や手段を探す

古着で簡単エコバッグの作り方

手順②

襟・袖を丸くカット

手順①

袖・襟のカットする部分に下書き

手順③

裾を短冊状にカット

兵庫県立柏原高等学校
普通科
知の探究コース

地震と聴覚障害 情報を平等に 支援を公平に

谷垣葵衣

研究の要旨

災害において聴覚障がい者が情報不足のために不利な状況にある。緊急時は情報が音で伝えられることが多いが、聴覚障がい者は提供された情報を受け取ることが困難である。災害現場でできることは限りがあるが、すべての人に同じ量の情報を届けるために、公平な支援の工夫を考えることが聴覚障がい者の情報不足を解消することにつながると考えた。そのためには情報の伝え方を工夫すること、聴覚障がい者が助けを求めやすくする工夫をすることが必要だという結論に至り、その具体的な方法の例を提示した。

発表のポイント

日本は地震大国である。地震大国1月1日に石川県能登半島地震が起こり、大きな被害が出た。南海トラフ地震や千葉県東方沖地震の発生も危惧されている。過去の被害から近年注目されている地震には、「聴覚障害」という目線で考える必要があることを知る機会になるとよいと思う。

現状

災害時に聴覚障がい者が不利な状況に置かれている。
東日本大震災では聴覚障がい者の死亡率が全体の死亡率の約2倍もあった。

	死者/人口(人)	死亡率
全体	12,853/1,244,167	1.03%
聴覚障がい者	75/3753	2.00%

参考:内閣府防災情報、障がい者制度改革推進会議第37回新谷委員提供資料
被災3県(岩手県、宮城県、福島県)

調査①聴覚障がいの方に対する対面インタビュー

ろう者(聴覚障がい者)の日常生活の困難や情報伝達手段を知る

調査②丹波市役所くらしの安全課を訪問

丹波市で現在行われている対策や支援を知る

調査③兵庫県立豊岡聴覚特別支援学校

聴覚障がい者への日常的に行われている支援を学ぶ
伝え方の工夫を知る

実際に避難訓練を見学し、緊急時の情報伝達手段と避難支援の方法を知る

なぜ死亡率に差ができてしまうのか

聴覚障がい者は災害時に情報不足になっている

緊急時に情報を伝達する方法は主に音
サイレン、「〇〇へ逃げる」



聴覚障がい者は提供されている情報に気が付きにくい



3つの調査から分かること

- ・聴覚障害は周りから気づかれにくい
- ・マスクで口元が隠れると唇が読めない
- ・日常生活ではネットで情報を得ることが多い
- ・音の情報と合わせて振動や光を使っている
- ・色の使い分けやマークを使って情報提示



これらを踏まえて必要な2つの工夫

聴覚障がい者に情報を伝えるにはどうすればよいか

情報を全ての人に平等に届けるには、個々人に合わせた公平な支援が必要

しかし...

災害現場でできる支援には限りがあり、
一人一人に対応を変えることは難しい



「万人受け」する方法が必要。被災地の負担削減にも繋がる。

①伝え方の工夫

災害時の情報伝達で重要な要素 早い・簡単・正確
→ひと目で分かる伝え方

例えば...

- ・指差しボードの使用(②でも使える)
- ・避難所の掲示板の早期設置



パンダナ



使用例

②聴覚障がい者が助けを求めやすくする工夫

- ・立場を示すパンダナの使用
- ・聴覚障がい者のためのコンテンツやサービスを提供している団体を利用する(電話リレーサービスなど)

展望

- ・災害時はインターネットや電子機器の使用ができなくなる可能性
→十分な電力の準備
電子機器を使わない支援方法を考案
- ・提示した具体例の検証

参考文献

- ・電話リレーサービス Webページ <https://www.nfrs.or.jp>
- ・株式会社プラスヴォイス Webページ <https://plusvoice.co.jp/>
- ・立場を示すパンダナ 広報たんば2021年2月号
- ・NHK未来スイッチ <https://www3.nhk.or.jp/news/special/miraiswitch/article/article78/>
- ・丹波市地震ハザードマップ <https://www.city.tamba.lg.jp/uploaded/attachment/3801.pdf>

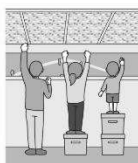
「平等」と「公平」なにが違う？








平等:量が同じ



公平:ゴールが同じ



(4) 2年「丹BAL II」

<p style="text-align: center;">生徒がより良い 学校生活を送ることが できる学校づくり</p> <p style="text-align: right;">植矢延寿 秋山朋奈 大池幸音</p>	<p style="text-align: center;">動機</p> <p>3年しか無い高校生活をもっと充実したものにしたい！</p> 	<p style="text-align: center;">サミットで学んだこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国にも校則について悩んでいる人がいる ・校則は変える権利がある ・意見が異なる人との対話が必要 対立×対話 	<p style="text-align: center;">先生インタビュー</p> <p>校則を変えることに反対の意見が多いと思った → 賛成意見の方が多かった</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校則は時代に合わせて変えていくべき ・校則に対する意見が言いにくい、言う機会がない
<p style="text-align: center;">仮説</p> <p style="text-align: center;">今ある校則を変えることで より良い学校生活を送ることができる</p>	<p style="text-align: center;">アンケート</p> <p>校内ではスマホ禁止</p>  <p>校則についての満足度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1: 満足していない 2: あまり満足していない 3: どちらでもない 4: 少し満足している 5: 満足している 	<p style="text-align: center;">校長先生インタビュー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校則は私たちが損しないためにある ・時代、学校に合った校則にする必要がある 	<p style="text-align: center;">考察</p> <p>必要なのは 校則を変えること ではなく、校則に対する理解を深めること</p>
<p>学校のことにについては生徒の自由でいいと思う</p> <p>よくわからない制度が多いと思う</p> <p>学年によって校則に対する考え方が違うのはよくないと思う</p> <p>男子と女子で校則をかけるのが時代がだてと思う</p>	<p style="text-align: center;">アンケートを実施して (生徒)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校則に疑問を持っている生徒が多い ・満足度は校則によって違う ・人によって様々な意見を持っている 	<p style="text-align: center;">今後の展望</p> <p style="text-align: center;">委員会を作る！</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全校生徒が校則について考える機会を作る ・校則を変えるべき時に簡単に変えることができる環境を作る 	
<p>校則を守ることは、社会に出たときにもしっかりとルールを守れる人間になるための練習なのです。</p> <p>学校は我機を学ぶ所です。</p> <p>大学受験、就職の際に、悪い印象を与えてしまう可能性があるため。</p> 	<p style="text-align: center;">アンケートを実施して (先生)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校則が必要だと考えている人が多くいた ・先生には校則について考える時間があまりないかもしれない 		
<p style="text-align: center;">ルールメイキング サミット2023</p> 	<p style="text-align: center;">サミットに参加して...</p> <p>校則・ルールの制定や見直しを進めるうえで前提にしたい 3つの原則</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 一人ひとりが意見を自由に 2. 最も多くの賛成を得る 3. 学校は校則を定め、その校則・制度への変更の権利を保持する。公明正大な意見の発表 		

(5) 3年「グローバル」

HSP x 音楽 (Highly Sensitive Person)

01 きっかけと目的

【きっかけ】HSPを知らない人や、同じような悩みを抱えている人にも、HSPのことを知ってもらいたいと思った

【目的】より多くの人にHSPの存在を知ってもらって、理解を深めてもらいたい
しかし周りの理解が深まるだけでなく、HSPの人たちが、HSPというものは自分の素晴らしい個性なんだと思えるようになってほしい

02 HSPとは？

Highly Sensitive Person
(ハイリー・センシティブ・パーソン)

エリン・N・アーロン
http://www.elaine-aron.com/elpo
tgh@elaine-aron.com

生まれつき敏感で、周りからの過度に受けやすい人のこと
1996年にアメリカの心理学者、エリン・N・アーロン博士が提唱した
HSPは特性であり、病気ではない → 治すことは不可能！
5人に1人の割合 → HSPは身近なもの

03 HSPの主な4つの特徴「DOES」

- D** Depth of processing
物事を深く考えて行動する
- D** Overstimulation
過剰に刺激を受けやすい
- E** Empathy and emotional responsiveness
共感性が高い
- S** Sensitivity to subtleties
些細なこと気づきやすい

04 HSPのことを広める手段

音楽を通して表現したい

(ジャンル: ポップス) 歌詞で自分の気持ちを伝える

なぜ音楽で伝えたいのか？

- HSPの人たちの気持ちや思いなどを印象に残る形で伝えることが出来る
- 自分自身、音楽を通して心が軽くなった経験がある
- 音楽は幼い頃から触れてきていたので、身近な存在
- スライドなどで伝えるよりも共感を築めやすい

音楽にできること →
人の心に優しく寄り添うことの方法のひとつ

04 HSPのことを広める手段

(歌詞)
ひとつ、ふたつと入り込む世界の新要素
見落とさないように、暮さないようにたいせつに抱えている
みつつ、よつつと行き交う電波たち
一つには選べないから、良いも悪いも捨て受け取っている
そのままでもいいんだよいくら周りと違ってたって
あなたの思いで救われる人がいるから
あなたの言葉であたたまる人がいるから
気にしすぎなところも完璧を目指すところも 窮屈そうに思えてほんとは羨ましいんだ
悩まされることがほとんどだけど私もそう、あなたも
花を咲かせることが出来ると思うんだ

プロデューサーの121

参考文献

【音響】上野 陽香「敏感すぎるママが笑顔になる！奇跡のHSPカウンセリング
しつこい不安が隠れてなくなる本」, Olive/出版, 2022年7月24日

【書籍】上野 陽香「敏感すぎるママが笑顔になる！奇跡のHSPカウンセリング
しつこい不安が隠れてなくなる本」, Olive/出版, 2022年7月24日

【書籍】上野 陽香「敏感すぎるママが笑顔になる！奇跡のHSPカウンセリング
しつこい不安が隠れてなくなる本」, Olive/出版, 2022年7月24日

丹波から TAMBA へ・自己理解と他者理解の螺旋

地域課題を活用した、「多様な価値観を共有する人材」を育成する教育課程の開発
新時代に対応した高等学校改革推進事業（普通科改革支援事業）

2023 年度（令和 5 年度）活動報告集

発行日 令和 6 年 3 月 3 1 日

発行者 兵庫県立柏原高等学校

〒669-3302 兵庫県丹波市柏原町東奥 50

TEL 0795-72-1166 FAX 0795-72-1168



学校HP



「くりゅう」
(マスコットキャラクター)